

依然として高水準も、米インフレ率は鈍化

ポイント① 着実に減速している米CPI

13日発表の5月の米CPIは前年同月比4.0%上昇、変動の大きいエネルギーと食品を除くコアCPIは同5.3%上昇と、4月から伸びが鈍化しました。項目別では、前年同月比でエネルギーはマイナス寄与が続き、食品とサービスはプラス寄与度が縮小、一方で、財はほぼ横ばいとなりました。インフレ率は依然として水準は高いものの、着実に減速している様子が示されました。

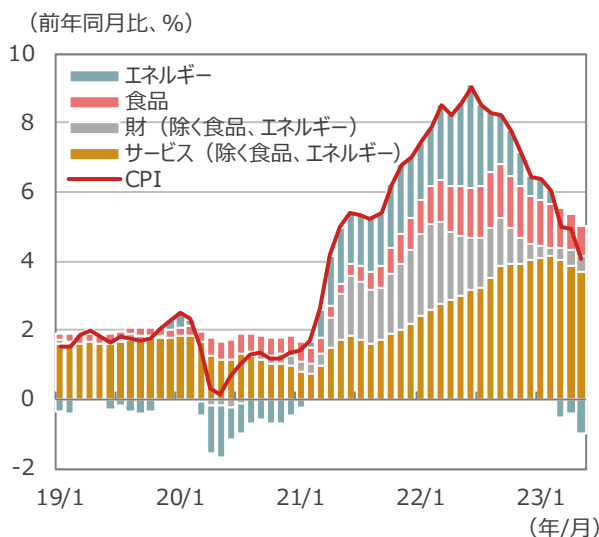
ポイント② サービス価格インフレに鈍化の兆し

コロナ前の水準を大きく上回っているサービス価格のインフレには、ようやく鈍化の兆しが見られます。サービス価格への影響が大きい住居費の伸びが小幅ではありますが2カ月連続で鈍化したほか、先行性があるとする米不動産情報サイトの家賃指数の伸びは大きく低下しています。一方、住居費以外では中高所得者を中心にコロナ禍で抑制されていた旅行や外食などが引き続き堅調です。鈍化してきているとはいえ高い賃金上昇率に加え、コロナ禍で積み上がった過剰貯蓄や株高による資産効果が米個人消費を支えており、今後のインフレ動向はこれらの行方が鍵を握ります。

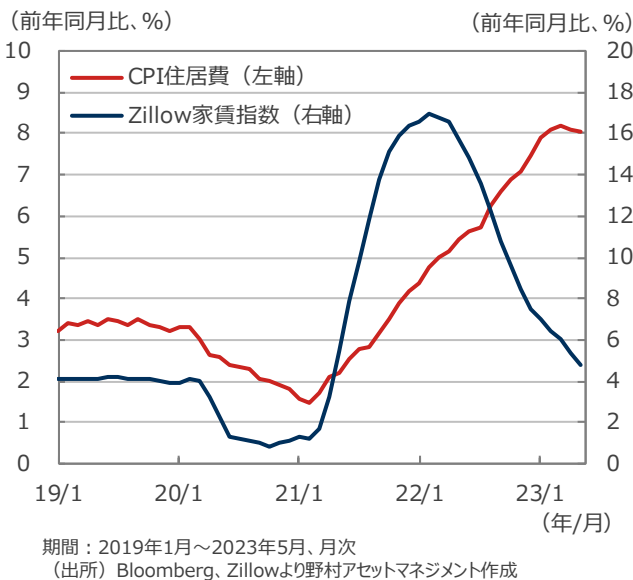
ポイント③ 米利上げ見送りの可能性高まる

これまでの利上げ効果の顕在化を見極めるために、13-14日の日程で開催中のFOMC（米連邦公開市場委員会）では利上げ見送りの可能性が高くなっています。一方、市場はFRB（米連邦準備制度理事会）が期待するようなインフレ減速がなかなか進まず、高金利政策が続くと見ているようです。米10年国債利回りは前日比で上昇し、1米ドル=140円台まで円安・米ドル高が進みました。引き続き、今後のインフレ動向には注視が必要です。

米CPI（消費者物価指数）と項目別寄与度の推移



米CPI住居賃とZillow家賃指数の推移



**重要
イベント**

- 6月15日 米小売売上高、米鉱工業生産指数（5月）
- 6月30日 米個人消費支出デフレーター（5月）